

28 バングラデシュ 農村電化事業 (フェーズIV-C)

配電網整備と農村電化組合の設立により
農村地域における住民の生活水準向上に貢献

| | |
|---------|-------------------------------|
| 承諾額／実行額 | 54億4,200万円／47億7,900万円 |
| 借款契約調印 | 1995年10月 |
| 借款契約条件 | 金利1.0%、返済30年(うち据置10年)、一般アンタイド |
| 貸付完了 | 2003年11月 |
| 実施機関 | 農村電化庁 |

本事業の目的

バングラデシュにおける4つのディストリクト(県)において、配電事業を実施する農村電化組合(PBS)の設立および配電網整備を行うことにより、農村電化を図り、住民の生活水準の向上に寄与することを目的とする。

本事業実施による効果(有効性・インパクト) 評価 b

本事業により、対象地域の世帯電化率はラジシャヒPBS管轄域内で41.2%と全国平均の20.1%を大きく上回った。

また、送電損失率については、15%弱と国内の他の電力公社等に比べて低位にとどまっており、加えて料金徴収率は90%以上であることが確認されている。以上から本事業実施にかかる運用効率は高いと判断される。さらに、本事業は灌漑施設の電化を推進し、その結果、農業生産高の向上、工場やPBSにおける雇用機会の増加といった効果もあったことが確認されている。一方、バングラデシュ全土における慢性的な電力不足から、配電を行う農村電化庁(REB)には限られた電力しか供給されず、電化された地域における停電が長時間に及ぶなどの問題が生じている。よって、本事業の実施により一定の効果発現がみられ、有効性は中程度である。

本事業実施と国家計画等との整合性(妥当性) 評価 a

本事業の実施は、審査時および事後評価時ともに、国家計画等と合致しており、事業実施の妥当性は極めて高い。農村電化

の推進は審査時における第4次5カ年計画、事後評価時には2003年に暫定的に策定された貧困削減戦略文書(PRSP)のなかで課題として掲げられている。

事業実施の経済性(効率性) 評価 a

本事業は期間および事業費ともに、ほぼ計画通りであり、効率的に実施されたといえる。当初計画の通り、3つのPBSが設立され、配電線および変電所等が建設されたことが確認されている。

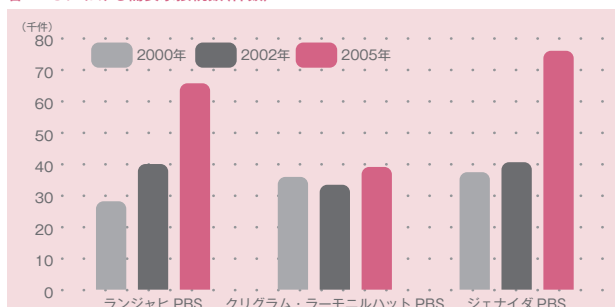
今後の展望(持続性) 評価 b

本事業は、各PBSが赤字を計上していることやバングラデシュ全体の電力不足の問題があるものの、実施機関であるREBにおける研修、マニュアル整備といった体制面、財務状況は概ね良好であることから、持続性は概ね問題ないと評価される。

結論と教訓・提言

以上により、本事業の評価は高いといえる。本事業により設立されたPBSは独立した事業体として業務の効率化や事業拡大に取り組んでおり、良好な運営がなされている。このような制度設計は、今後のJBICが実施する事業に対して示唆の多いものである。本事業にかかる提言としては、PBSの赤字解消、同国の慢性的な電力不足の問題についての早急に対策を講じることが挙げられる。

各PBSにおける需要家接続数(件数)



開発途上国専門家の意見

同国の慢性的な電力不足については引き続き課題であるが、本事業の妥当性は高い。本事業は農業や家内工業等幅広い産業の発展に貢献し、地域住民にもたらしたインパクトは大きい。

専門家の氏名： Mr. Quazi Md. Obaidul Munim (NGO)
バングラデシュ工科大学学士(電気)。1999年までバングラデシュ電力機構(BPDB)のメンバー(発電)を務めたのち、現在、コンサルタントとして活躍。専門は発電・電力。